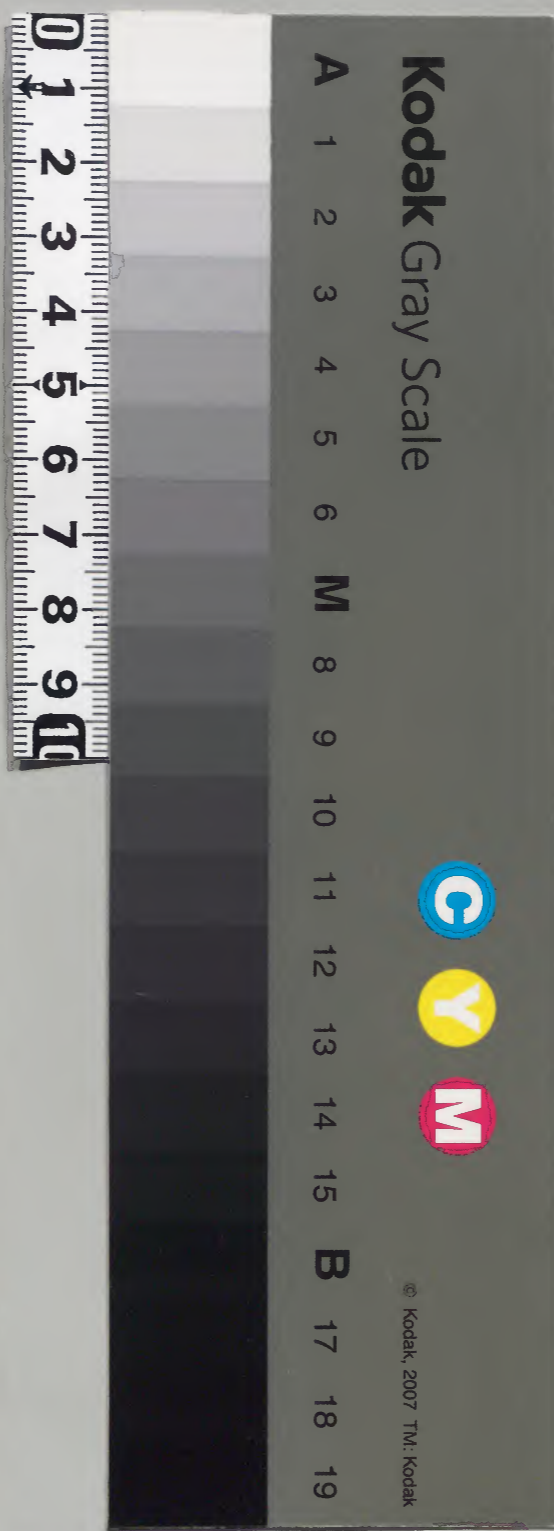


紀伊國名所圖會

四之卷上
名草郡

内閣文庫	
番號	和 8666
冊數	23 (6)
函號	176 14

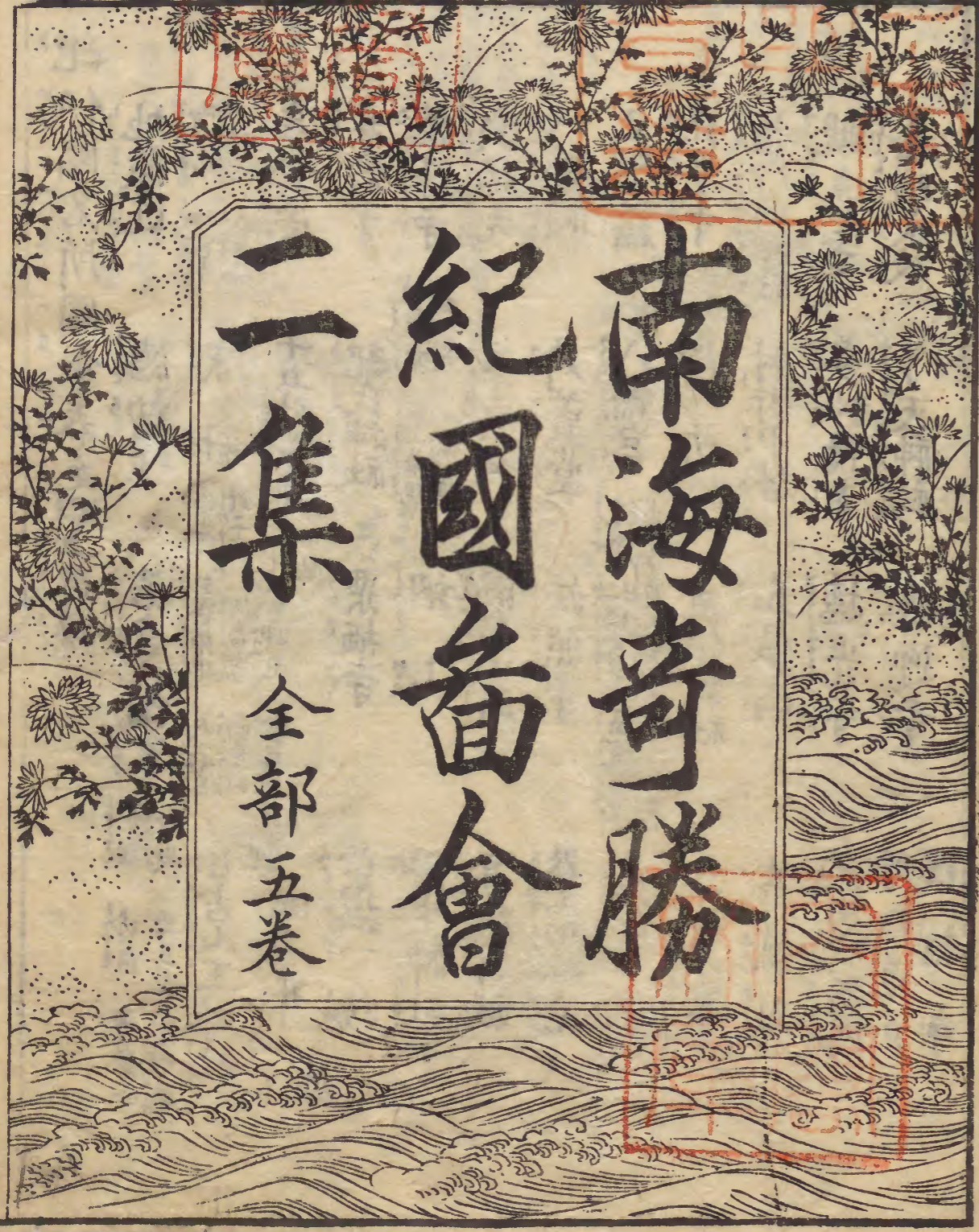
庫	文	閣	内
一七六函	八六六六號	二	和
一架	三冊	六六號	書
		類	



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

南島

中央圖書印



南海奇勝
紀國番會
二集

全部五卷

紀伊國名所圖會卷之四上目錄

地藏

德勃津

若宮八幡宮

正殿 透垣 神樂舎

志保能宮

末社

日吉山王神社

繪馬舎 御殿

高倉寺

紀氏神社

栗栖寺

曝井

幡津寺

車谷

姻山

栗栖一ツ物

大楠丸

八幡宮

温泉旧跡

丹生神社

八幡祠

荊萱堂

法照寺

高橋神社

こがし橋

禊所

氣鎮神社

蔡宿跡宅

元亨寺

射術甲科

和佐山

慈光寺

高御前神社

夢妙幢寺

和佐王子

觀喜寺

了天神社

總光寺

古城趾

太田城水攻

來迎寺

野の邊戸

太田古城跡

地藏

十字作通衢
可南又可北
地藏兼愛流
不使行人惑
素堂益

鈴蟲引
百種秋蟲耳根鳴
唯有鈴蟲似鈴聲
中宵枝葉鳴不止
啼徹四更月初傾
滿園秋柳汝所學
三寸籠中厄此生
異能食物皆然
象齒麝腰前戒備
明漆園傲吏達此理解道為
善不近名那誠蟋蟀不解音
卿卿唯使懶婦驚十月薄寒
肅其霜健羽長脚倒縱橫異
聲凡音此等耳無能無憂
何足榮

東涯



名草郡

府城の山中の... 日赤の... 鶴岡と大造

德勒津宮跡

教本が村... 德勒津宮... 是將討熊襲國則自德勒津發之浮海而幸穴門

八幡宮社

八幡宮の社... 八幡宮の社... 八幡宮の社

八幡宮の社... 八幡宮の社... 八幡宮の社

八幡宮の社... 八幡宮の社... 八幡宮の社

八幡宮の社... 八幡宮の社... 八幡宮の社

八幡宮の社... 八幡宮の社... 八幡宮の社

八幡宮の社... 八幡宮の社... 八幡宮の社

八幡宮の社... 八幡宮の社... 八幡宮の社

十三二月六日今の地へ遷しを... 徳頭と... 徳頭と

十三二月六日今の地へ遷しを... 徳頭と... 徳頭と

十三二月六日今の地へ遷しを... 徳頭と... 徳頭と

十三二月六日今の地へ遷しを... 徳頭と... 徳頭と

十三二月六日今の地へ遷しを... 徳頭と... 徳頭と

十三二月六日今の地へ遷しを... 徳頭と... 徳頭と

十三二月六日今の地へ遷しを... 徳頭と... 徳頭と

十三二月六日今の地へ遷しを... 徳頭と... 徳頭と

日吉山王神社

在津村... 日吉山王神社... 日吉山王神社



古く
 志保神社
 十五社明神
 持松寺
 かじりた
 めい
 めい
 史中
 史中
 松の
 上州
 水

此の地は古くより年々久しうとて、
 志保神社と併け、
 十五社明神
 紀氏栗栖神社
 曹目松前院高倉寺
 曝弁
 此の地は古くより年々久しうとて、
 志保神社と併け、
 十五社明神
 紀氏栗栖神社
 曹目松前院高倉寺
 曝弁



栗栖の中へ入ると曝みのなるかゝりひそとに素も我

紫雲山栗栖寺
 山崎なるか村にあり 弘法大師の御遺徳を奉る栗栖如来
 弘法大師の御遺徳を奉る栗栖如来
 山崎なるか村にあり 弘法大師の御遺徳を奉る栗栖如来
 弘法大師の御遺徳を奉る栗栖如来

白鳥山教王院幡降寺
 旧村末畑山の羊腹にあり 奉る薬師如来
 旧村末畑山の羊腹にあり 奉る薬師如来
 旧村末畑山の羊腹にあり 奉る薬師如来

○眼檀子安地藏
 七十年大仏大尊の御遺徳を奉る眼檀子安地藏
 七十年大仏大尊の御遺徳を奉る眼檀子安地藏
 七十年大仏大尊の御遺徳を奉る眼檀子安地藏

○大師堂
 奉り日過幡降寺
 東籬惟恭



八幡宮 日村少あり 延和神二座 中の神本とて 例を毎祀八月十五日

延和元年辛酉二月廿四日の徳座あり元永二年十月白河法皇然乃幸のわらも奉幣のことなり
あり其後又元永二年二月廿四日の兵火なりとて元龜三年再建ありて翌天仁元年の秋遷宮ましく昔に於て
文房ありしは日十三年放火も焼亡せられ後同く
神田もありし二十五所の御もありしとて荒廢後没収せ

前宣堂

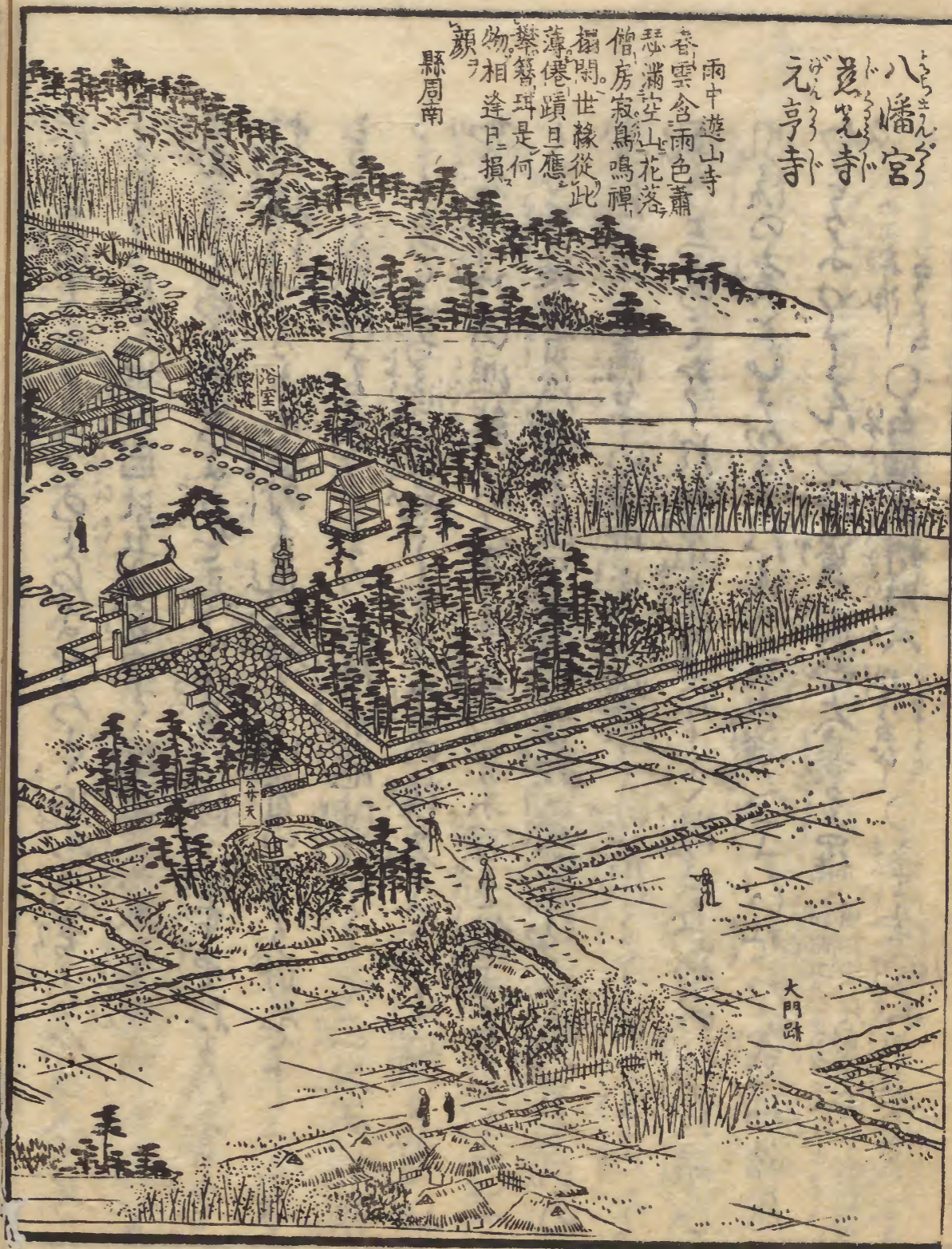
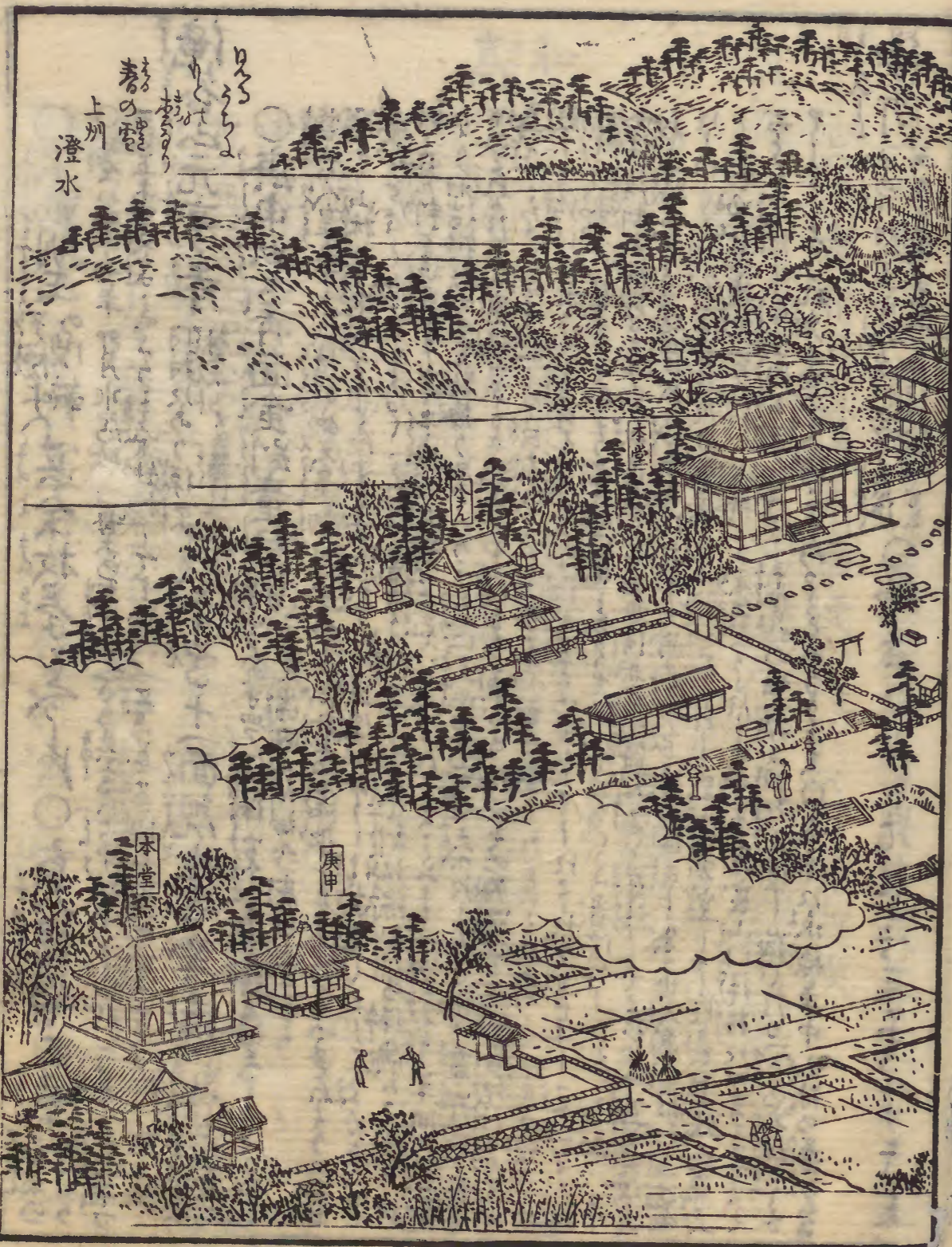
前宣堂 延和元年辛酉二月廿四日の兵火なりとて元龜三年再建ありて翌天仁元年の秋遷宮ましく昔に於て
文房ありしは日十三年放火も焼亡せられ後同く
神田もありしは二十五所の御もありしとて荒廢後没収せ

引せ居る 前宣の御も元永二年乃野原ありけり

延和元年辛酉二月廿四日の兵火なりとて元龜三年再建ありて翌天仁元年の秋遷宮ましく昔に於て
文房ありしは日十三年放火も焼亡せられ後同く
神田もありしは二十五所の御もありしとて荒廢後没収せ

觀池山法照寺

觀池山法照寺 日村あり 西本願寺流 本尊阿彌陀如来 十七年 觀音 二月二十九日
止宿ありてましくは素たましくけり 延和元年の僧侶淨依の



○不動明王の御筆 其余枚巻と云々 ○古石塔婆二卷 林泉の

○一巻は平七年卯月北尾政房母の文と云々 ○一巻は平七年卯月北尾政房母の文と云々 ○一巻は平七年卯月北尾政房母の文と云々

○一巻は平七年卯月北尾政房母の文と云々 ○一巻は平七年卯月北尾政房母の文と云々 ○一巻は平七年卯月北尾政房母の文と云々

○一巻は平七年卯月北尾政房母の文と云々 ○一巻は平七年卯月北尾政房母の文と云々 ○一巻は平七年卯月北尾政房母の文と云々

○一巻は平七年卯月北尾政房母の文と云々 ○一巻は平七年卯月北尾政房母の文と云々 ○一巻は平七年卯月北尾政房母の文と云々

○一巻は平七年卯月北尾政房母の文と云々 ○一巻は平七年卯月北尾政房母の文と云々 ○一巻は平七年卯月北尾政房母の文と云々

○一巻は平七年卯月北尾政房母の文と云々 ○一巻は平七年卯月北尾政房母の文と云々 ○一巻は平七年卯月北尾政房母の文と云々

○御幸記と云々 ○御幸記と云々 ○御幸記と云々

子暫相待之間御幸先出儲所禊所ワサ井ノ口ト云々日前

宮内侍奉幣予為侍奉幣使小時於此所右御禊

氣鎮神社 御宜村末 記云神紀直御天御食持神仍云每来九月廿日

○幸國社名此云從四位上氣津別社 ○社名云直日社と云々

和伏王子 日村浦の御幸記に云々

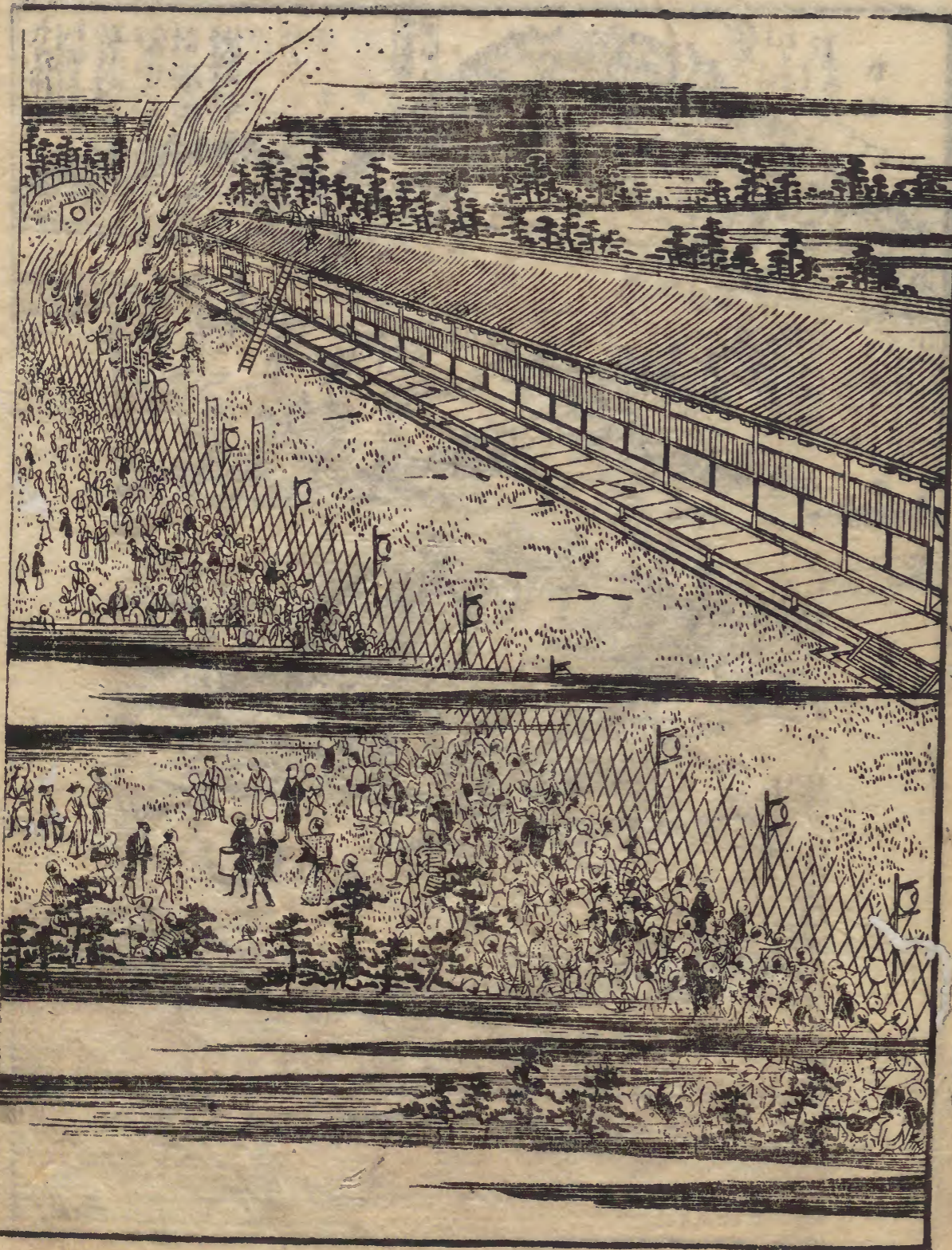
高御前神社 日村の東山の記云神二座 一は青神 一は赤神

十月十四日夜戌刻の朝十二束と移すこれ瓜畑一列火

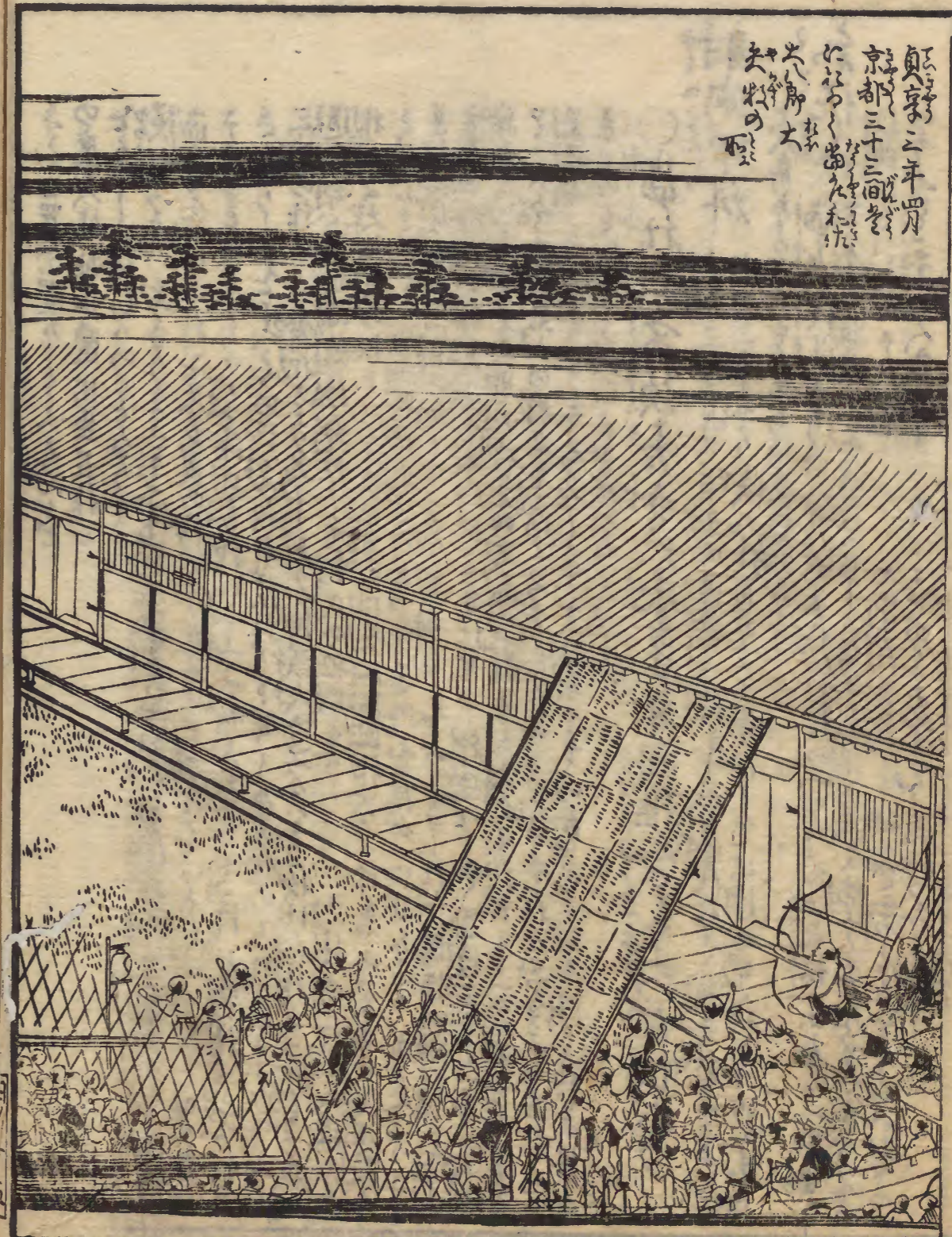
中を御司す云々 神名此に從四位上云々

神名此に從四位上云々 神名此に從四位上云々

神名此に從四位上云々 神名此に從四位上云々



貞享二年四月
京都二十三日
大船大
火の
大船大
火の



古城の跡

紀伊の

まじ山の遊郡の高の四方に幾々として翠傲哉

箱山岩出の里も輝たう東北を粉川寺風極乃岩根本紀

の川の長流あり右野の岩の標をそくする茂よする妙男を

本のまのまのくくををよねかた浦あつる砂礫のうらね江

二里ヶ濱の口乃泊れ菊が淡のうらくまでも一服不遊り風を

つらぎうらくまも延文の古戦場をうらくま

隆俊の紀伊國の勢二千の騎兵争しく紀伊國を初て争に

陣をうらくまをうらくまをうらくまをうらくま

が合身尾張守義隆大將に白旗一撥平一撥誦言祝賀千

勢の二撥杉原の勢彼此都合二万余騎争しく初が争う向うけ

勢別敵陣は相あつてうらくまにうらくまをうらくまをうらくま

陣をうらくまをうらくまをうらくまをうらくま

をうらくまをうらくまをうらくまをうらくま

井谷の歡喜寺

後深草天皇御宇

○奉る薬師の寺

高らの草創とらくまをうらくまをうらくまをうらくま

高羽は皇崩御するをたまふうらくまをうらくまをうらくま

もねるうらくまをうらくまをうらくまをうらくま

りよの花乃中風まうらくまをうらくまをうらくまをうらくま

勢瓜をうらくまをうらくまをうらくまをうらくま

帯心なうらくまをうらくまをうらくまをうらくま

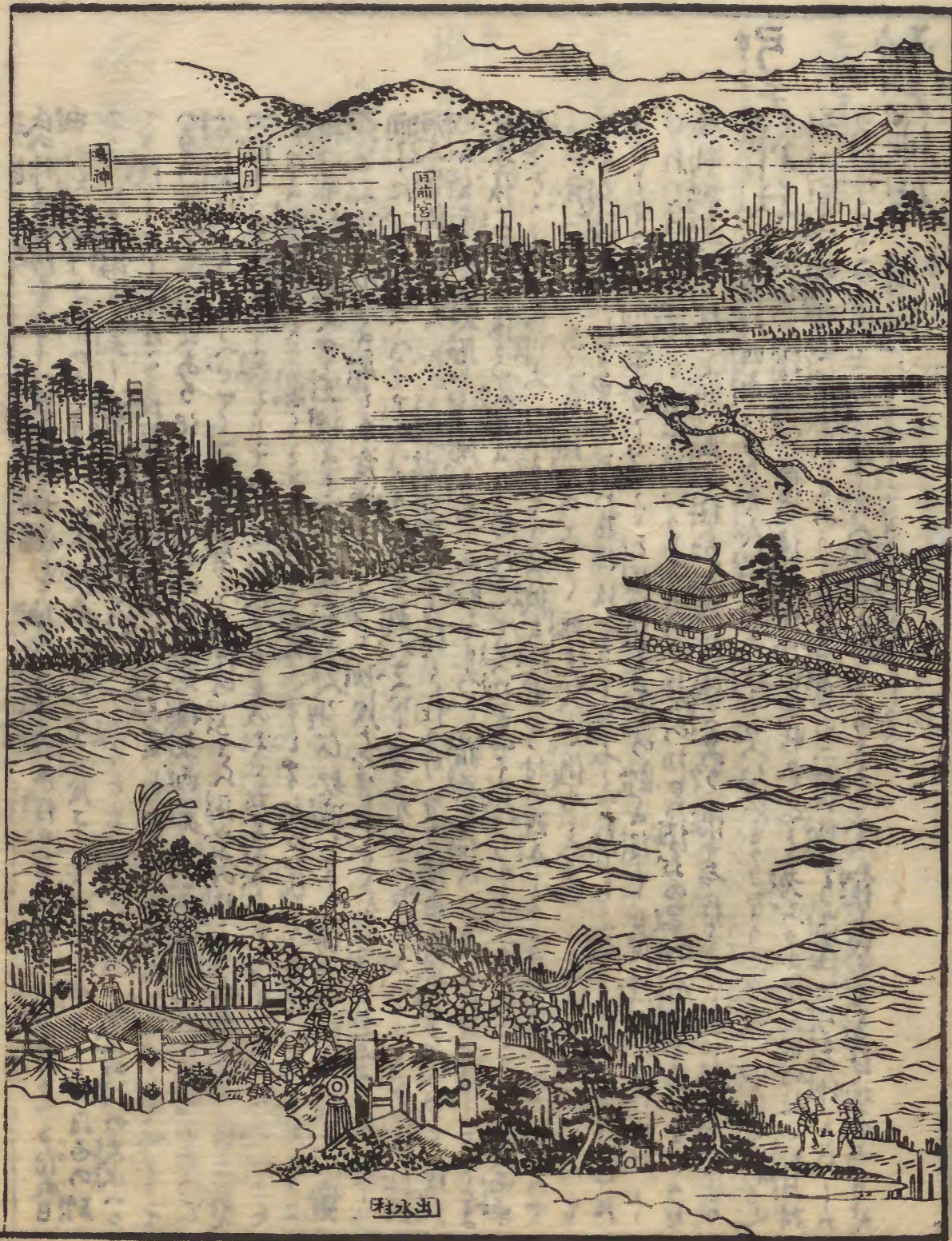
と造建たうらくまをうらくまをうらくまをうらくま

どりけり其後文永二年和州極寺の地ようけりうらくまをうらくま

あつたあり身く乾元二年けりうらくまをうらくまをうらくま

を定せたまふい莊嚴寺の大地盤をうらくまをうらくまをうらくま

え徳二年のうらくまをうらくまをうらくまをうらくま



出水村



大田城
水攻の
下

大田里

村田里

村田吉



密嚴山大聖院法輪寺 吉田村あり古云

本尊不動明王 弘法大師の作 身長二尺八寸五分

観音堂 本堂の西あり 輪観音 身長五寸 弘法大師の作 内裡に平安正月

中興寺 有田郡あり 高倉院の武者所 平重國といふあり 寺のこの観音 淺草寺の観音の如く 娘を田舎に嫁し 男と出せしむる 梅尾明王上人あり

歡喜堂 本堂の南あり 昔は大師入唐のとき 修那と雲標の如く 内裡に平安正月

御修法の初 平安正月 御修法の初 平安正月 御修法の初 平安正月

注生 御室の法務 大徳正 和尙の教 在夫と 數人あり 御室の中 弘法大師の御室あり 持戒の行者なり 弘法大師の御室あり

八幡宮 本堂の 稻荷明神祠 あり

當寺舊の本州有田郡石垣組恒倉村あり 弘法大師の

開基 嵯峨天皇の勅願所 七堂伽藍の盡場あり 弘

中大塔二品親王 慈野へ入らるる 途中と 御不例

小御府より 當寺へ 御止宿し 給ひ 御平

あり 親王 慈野の 皇居へ 歸せられ 御令旨を下

田邊と 寄附 給へり 後日 郡島屋城主 畠山氏 累

代々の 寺を 祈願所と 寺 數 數 百 石 を 附 寄 せ たり

志 願 小 天 心 中 有 城 陷 没 の 時 當 山 の 伽 藍 跡 々 諸

兵 火 の 劫 灰 燼 々 々 後 終 小 寺 廢 々 々 人 跡

佛 と 安 置 し 奉 々 々 小 寺 廢 々 々 人 跡

到 々 々 掃 々 々 花 の 朝 々 唯 禽 々 々 寒 々 々 月 の 夕

火 宅 の 喧 々 々 一 復 九 旬 六 の 寺 廢 々 々 一 夕

不 思 議 の 夢 想 々 々 竊 々 諸 佛 と 遷 々 々 奉 々 々 志 々

起し吉田村人壽長ありふ林木の計りたるに即八幡の社
 あり本明比丘大に悦びまると伽藍おぬの地なりとて八幡
 明神と信守とて遂に堂宇と營み諸佛をうつ小遷し
 奉りて守りてと 國君の祈願寺と命せらる



紀伊國名所圖會卷之四上終



